

JR連合

第22回定期大会開催

新会長に松岡氏を選出！



JR連合は、6月18日・19日に「東武ホテルレバント東京」において、第22回定期大会を開催し、「新たな飛躍にむけ、政策制度、組織課題を解決し、安全で社会に信頼されるJRを築こう！」をスローガンに掲げ、代議員、来賓、傍聴者合わせて、約280名が参集し、建設的かつ熱心な討議を通じ、安全確立、民主化闘争完遂、政策実現、参議院選挙勝利を中心とする新年度の

運動方針を満場一致で決定した。

JR連合を代表し坪井会長は挨拶で、「JR連合は昨年大会で『未来宣言』を發した。その具現化に向け、グループ85単組とともに、確固たる決意をもって民主化闘争に取り組むとともに、これまで培ってきた政策提言・実現力を背景に、JRが抱える中長期的政策課題の解決に取り組む」と訴え、運動方針の各重要課題について、所信

松岡新会長

その後、執行部答弁、井口事務局長の総括答弁のあと、全議案が満場一致で可決された。

なお、役員選出では、2期4年に亘りJR連合運動を牽引してきた坪井会長に代わり、松岡新会長が選出された。

政策課題解決について

JR四国労組では、全組合員で増収キャンペーンに取り組み、収入の確保にも積極的な取り組みでおり、その結果、JR四国の平



発言する眞鍋代議員

眞鍋代議員 発言要旨

安全・安定輸送の確立について

JR四国労組は、「安全・安定輸送の確保」が輸送業務の最重要課題であるとの認識に立ち、労働組合としてのチェック・提言機能を発揮しながら、「安全の確立」に向け日夜取り組んでいます。

JR連合の安全指針にも触れられている「ヒューマンエラーは結果であり、原因ではない」との認識の基、事故後の対策等について、グループ会社を含めた職場で議論を重ね、その声を、経営協議会等の場で反映させるなど、労使で徹底した議論を行っており、今後もこの取り組みを継続させていきます。

JR四国労組は、安全の取り組みを第一義に取り組んでいることを報告させていただき

成24年度決算において、鉄道運輸収入は、前年度実績を2億円上回る228億円となりました。しかし、高速道路土休日1,000円が実施される前の平成20年度の水準には戻っておらず、依然として低い水準となっております。経常利益につきましては、平成22年度、23年度に、JR連合をはじめ他単組の協力のもと、経営安定化に向けた取り組みの結果、新たな支援策として、「特例業務勘定の利益剰余金」を活用した経営安定基金の上積みによる債券利息収入があったこともあり、3期ぶりの経常黒字となりました。しかしながら、この新たな支援策のもと、新たなスタートを切って間もないこの時期に、今度は本州四国連絡高速道路料金を引き下げる案が出されております。平成26年度以降の本四高速の料金は今まさに議論されておりますが、以前の土休日だけの割引ではなく、365日通年で料金の値下げがされるとの情報もあります。仮に通年で本四の料金が1,000円となれば、鉄道運輸収入が8、18億円減少すると試算しております。これは、鉄道運輸収入が200億円程度のJR四国にすれば極めて大きな影響を与えますし、当然、そのことによる労働条件の低下や、ひいては雇用問題も浮上して

くるのではないかと危惧されます。併せて、地域の足の存続の問題にまで発展しかねません。昨年JR連合内に中長期政策課題プロジェクトを立ち上げ、この本四料金に関する問題についても「三島・貨物経営安定化PT」での議題として提起していたと共に、緊急大臣要請を行っていたなど、高速道路問題の解決に向けたJR連合の取り組みに感謝申し上げますが、本四高速料金問題はまだ解決しておりません。その他、瀬戸大橋の耐震補強工事に対する費用負担問題や、踏切設備をはじめとした鉄道施設の老朽化対策に対する費用負担等、まだまだ課題は山積しております。これらの課題解決に向け、JR連合には引き

続き政策集団としてのリーダーシップの発揮をお願いすると共に、JR四国労組としても政策課題解決に向け引き続き全力で取り組んでいきます。

春闘について

JR四国労組も、連合・JR連合が掲げる目標達成に向け、「統一ベア要求1,000円」を掲げて取り組みました。とくに「必達目標賃金」に到達していないJR四国労組としては、賃上げにこだわり、粘り強く交渉を展開しましたが、残念ながらベア獲得には至りませんでした。しかしながら、JR四国、ジェイアール四国バス共に定期昇給の確保ができました。2014春季生活闘争の取り組みについても非常に厳しい闘いが想定されま



第32回定期大会

第11回本部執行委員会開催

第11回本部執行委員会は、7月5日（金）第32回定期大会の前段の10時45分より、「道後館」の会場内で開催し、前回の執行委員会以降の経過報告等を行った。

なお、第11回執行委員会での、経過報告及び議事は次のとおりであった。

・（経過報告）
（経営協議会）
・ダイヤ改正

・（団交）
・平成25年度夏季手当・夏季賞与（JR四国・ジェイアール四国バス）
・（政治）
・JR四国労組議員団会議第22回総会（組織）
・出向組合員対話集会（本社・香川、高知、愛媛、徳島）
・（業務）
・安全推進委員会（事業）
・乗務員共済運営委

員会
（JR連合）
第22回定期大会
【議事】
・平成25年度夏季手当等の妥結承認について
・JR四国労組第32回定期大会について

高速道路料金問題に関し、国土交通大臣へ緊急要請

JR連合は、6月17日、高速道路料金問題の解決に向け、太田国土交通大臣と会談を行い、総合交通政策の観点に立脚した料金施策を実施するよう緊急要請を求めた。今回の要請行動にはJR連合及びJR四国労組中濱委員長をはじめとするJR各7単組執行委員長が臨み、JR連合国会議員懇談会からは高木義明衆議院議員（会長）、三日月大造衆議院議員（事務局長）、小川淳也衆議院議員（事務局次長）が同行した。現在、国土交通省に

おいては、高速道路料金施策を巡って議論が進められており、とりわけ利便増進事業として措置された料金割引原資が平成25年度末に枯渇する中、料金体系のあり方について制度設計が進められている。今月7日には国土幹線道路部会において中間答申が示され、今後、答申を踏まえた政策立案がなされるものと想定される。JR連合は高速道路料金が鉄道を含めた公共交通に大きな影響を及ぼすことから、料金施策の実施にあたっては統合的（総合的）な視点から持続可能な交通体系の構築に立脚した制度とするよう、今回国土交通大臣に対して緊急要請を行ったものである。

冒頭、坪井会長より、「私たち公共交通は国民の足として相互に補完し合い、総合的な交通網を維持している。その中で自動車交通は総合交通体系における主たる輸送手段であり、自動車交通に関する施策は他の交通手段のあり方を左右する。従って、高速道路を含めた自動車交通政策こそ総合交通政策の観点に立

脚した適切な制度設計を行うべき。そうした視点に立った料金施策の実施を強く求める」と今回の要請の趣旨説明を行った。

その後JR西労組前田執行委員長が地方部路線に關わる料金設定の問題、とりわけ拡大する無料化区間への影響について指摘、続いて貨物鉄道山崎執行委員長が物流におけるモーターシフト推進の観点に立った料金施策の実施を求めた。更にJR四国労組中濱執行委員長は、「四国には整備新幹線や高速鉄道の計画もなく、100万人都市もない環境下で極めて厳しい経営を行なっている。鉄道運輸収入の約4割を占める

る对本州輸送によって、四国全体の鉄道路線を維持している状況の中、本四高速料金の値下げは経営基盤の脆弱なJR四国には致命的である。瀬戸大橋の料金値下げという、国策による外部環境の変化は、経営自立計画には盛り込まれていない。総合交通体系の維持に向けて、影響の度合いを十分勘案した公的支援を検討していただきたい」と要請した。

これに対し太田国土交通大臣からは「皆さんの主張は理解した。高速道路料金施策は単に高速道路のみではなく、鉄道を含めた公共交通へ影響を及ぼすものであると理解している。頂いた意見を参考

にしつつ、公共交通のあり方を十分踏まえた上で判断を行うこととしたい。」との見解が示された。

JR連合は今後も総合交通政策の観点に基づいた合理性のある高速道路料金施策の実現に向けて、様々な取り組みを展開していく。



ユニオンスクール開催！

6月1日高松市「サンポートホール高松63会議室」において、管理者組合員（現場長・助役・非現業部門の主席クラス）を対象にした「ユニオンスクール」（管理者30名）が30名の参加のもと開催された。

始めに、中濱委員長から「管理者組合員に期待すること」と題し、JR四国労組を取り巻く情勢や直近の取り組みについて課題提起するとともに、分会をはじめとする組織における管理者組合員の重要性などについて講演があった。

その後、富士社会教育センター志垣講師からの特別講演「管理者組合員に求められるもの」と題し、人材を育成し、会社と組合を繁栄させていくためには、管理者組合員の役割



は非常に重要であり、管理者組合員が労働組合に関わり、リーダーシップを発揮することが会社の発展に繋がることを自覚し、業務と組合活動に励むことが重要であるとの講演を受けた。



子供達が犠牲になる事故の撲滅願い 青年女性会議「鉄道版交通安全教室」を開催

本部青年女性会議のボランティア実行委員会メンバーは6月7日（金）、高知市の「東秦泉寺保育園」で、今回で14回目となる「鉄道版交通安全教室」を開催した。

このボランティア活動は、青女組合員が業務中に遭遇した、子供が線路内に立ち入ったことによる痛ましい事故やヒヤリとした経験を教訓に「子供が列車に跳ねられた事故」ではなく「子供達の仲間が子供を跳ねた事故」として捉え、こういっ

た事故を一件でも減らそうということから、平成15年から継続して企画・開催している。

今回の「鉄道版交通安全教室」は、「しげちゃん」「ひろみちゃん」「アンパンマン列車」が登場する人形劇「線路には近寄らない」と「列車は急に止まらない」の2本を上演するとともに、「踏切の渡り方」についての実演では、興味津々、楽しみなが正しい渡り方や線路に立ち入らないこと等を学んだ。

活動は、青女組合員が業務中に遭遇した、子供が線路内に立ち入ったことによる痛ましい事故やヒヤリとした経験を教訓に「子供が列車に跳ねられた事故」ではなく「子供達の仲間が子供を跳ねた事故」として捉え、こういっ

た事故を一件でも減らそうということから、平成15年から継続して企画・開催している。

今回の「鉄道版交通安全教室」は、「しげちゃん」「ひろみちゃん」「アンパンマン列車」が登場する人形劇「線路には近寄らない」と「列車は急に止まらない」の2本を上演するとともに、「踏切の渡り方」についての実演では、興味津々、楽しみなが正しい渡り方や線路に立ち入らないこと等を学んだ。



レク・サークルだより

「四国再発見」出発進行!!



大に開催することが出来ました。

普段、話をする事の少ない組合員と隣りおしで、始めは会話が少なかったようですが、お酒が入ればこつちのものだ!!と言わんばかり。自然と会話が弾み、組合員の親睦を深める充実した時間を過ごす事が出来ました。

これからも愛媛電気分会では、様々なレクを開催し、組合員の団結を図っていくと共に、誰もが親しみを持てる分会を目指していきたいと思ひます。

愛媛電気分会
今井 勇樹

本社支部

増収レク開催！

私たち運輸部分会は、4月10日、12日、4月の増収レクを、盛

安全推進委員会を開催！

6月24日（月）16時から本部1階会議室で安全推進委員会が開催された。

冒頭、浅岡安全推進委員長から、「安全は鉄道事業の最大の使命であり、労働組合としてチェック機能をしっかりと果たし、安全最優先の職場風土構築に向け取り組んでいかなければならない。」と

挨拶があり、その後、事故防止に関する経営協賛会について②職場環境改善の取り組みについて③第7回安全シンポジウムについて④平成25年度の安全・安定輸送に向けた取り組みについての報告と説明があり、各委員から安



全に関する意見や質問があり、活発な議論が展開され、「安全最優先の職場風土構築」に向けて取り組みの強化を図った。

今後とも四国再発見の目標達成と組合員、準組合員の親睦に積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

運輸部分会
安岡 裕司

